

5 | 6 2 | 0

(包紙)

「伯州米子

大谷新九郎様

地宝院

貴下

從高野山 □室」

5 | 6 2 | 1

尚々御家門御衆中へも近來中絶之儀宜敷

御執成之段奉頼上候、以上

一筆致啓上候、以先秋冷

之節御座候所御渾家様益

御揃御機嫌能被成御座珍然

之至奉存候、随而当山野院

無異儀寺務罷在候間乍憚

御休慮思召可被下候、然者近年

彼是と致年々使僧得差下

不申、就夫而者大ニ御不音ニ

打過候段真平御免可被下候

一 御先祖方御建牌も於

本堂無怠慢御廻向申上罷在候間

此段御安意思召可被下候

一 御先祖御位牌も中絶之筋も

有之候ケ之様ニ奉存候、何卒々

御先祖御同様ニ被成置候様致度事

奉存候、将又段々若年之弟子とも

差下シ候間御懇意ニ御引廻し

被下候様奉頼上候、猶近年御 □(由緒)

御法名写差上候間御覧可被

遊候、先者右為可得御意疎筆如斯

御座候、恐惶謹言

地宝院

八月廿一日 應(花押)

大谷新九良様

5 | 6 2 | 2

元和二辰八月十七日

元和二年ヨリ元治乙丑二年マテ

松柏院殿

二百五十年ニ成

元和二辰八月廿日

大谷玄番實眞夫婦

瑞永院殿

右同断

右二靈高野山地寶院ニ石牌アリ

日牌寄附也当所総泉寺ニワイテ

寄石塔有之事

天保三辰七月廿五日

至寶道珍居士

元治二年迄三十四年

昨子年年忌失念ニ付

此度一緒ニ執行之事

天保十一丑六月十七日

蓮臺院

当丑年廿五回忌

右四靈年回法事丑四月廿七日相営